

## あ と が き

2年の準備期間を含めると7年の長い歳月をかけて取り組んできた生涯教育の立場に立った市民参加による「足利市の教育目標」設定の仕事がまとまり、ここに報告できますことは、事務局の一人として感無量なものがあります。

今回の教育目標設定は、昭和29年設定の「足利市教育の一般目標」を検討し、新しい時代の教育的課題に対応できる、家庭、学校、社会の教育全体を含めた足利市の生涯教育を推進しようとする重要な使命をもったものでありました。事務局として参加させていただくことになり、その責任の重大さを痛感し、期待にこたえるべく事務局員一同の総力を結集して取り組んでまいりました。

しかし、道は遠く厳しいものでありました。基礎研究から始まった研究につぐ研究、毎月開かれる各専門部会議・目標起草委員会議の準備と整理、市民の意識や実態を把握するための各種調査と、それらの結果をまとめて市民の皆様には知らせたり、中間報告書の作成、中間発表会・中間報告会の実施等事務局が処理していかなければならない仕事が多く、期待に十分こたえられなかったことも多々ありました。また、研究をどうすすめたらいかに悩み、壁に突き当たったことも再三でありました。

幸いにして、終始貴重な御意見と御指導を下された目標設定委員の方々の温かな心遣いと熱意に支えられ、また、市民の皆さんの積極的な御協力に励まされて今日に至ることができました。更に、河野、新井両先生には、第1回教育目標設定委員会全体会議において基本的な研究の進め方の御指導をいただいて以来、5年間にわたり研究段階に応じた適切な指導と助言によって、研究の基本的な考え方や進め方、調査方法、研究のまとめ方等についての貴重な示唆をいただきました。特に、事務局員が東京までお伺いしたことが幾度となくありましたが、その都度御懇切な指導と研究の方向づけを示していただき、研究を軌道にのせることができました。

ここに、教育目標のまとめにあたり、御指導下さいました河野、新井両先生をはじめ講師諸先生、御尽力、御協力いただきました関係者の方たち、市民の皆さんに衷心より厚く御礼申し上げます。

最後に、この教育目標が、家庭教育、学校教育、社会教育に生かされ、市民の皆さんのものとして、一人ひとりが自ら目標をもって生涯にわたって学習し、一方、いつでも、どこでも、だれでも学べる条件が整備されて、本市の生涯教育が大きく前進されますことを祈念いたします。

昭和56年 1 月

足利市立教育研究所長 川 上 薫